

● ホンダ硬式野球部が、11年連続で都市対抗野球大会に出場！

6月25日(水)、第85回都市対抗野球大会(7月18日～29日・東京ドーム)の出場を決めたホンダ硬式野球部の皆さんが市役所を訪れました。市長から推薦状を受け取り、狭山市の代表として5年ぶりの優勝を目指します。また、市では応援バスツアーを企画します。頂点を目指して戦う狭山市Hondaと一緒に応援しましょう。  
**【応援バスツアー】**  
 日時7月23日(水)、15時狭山市役所出発 対象市内在住・在勤の方 定員40名 費用1,000円(小学生以下500円) 申込み7月18日(金)までに費用を持ってスポーツ振興課へ内線5711



● 埼玉西部消防組合火災予防条例を改正イベント主催者に火災予防措置を義務づけ

平成25年8月に京都府で発生した福知山市花火大会の火災を踏まえ、イベントを主催する方に対して、防火担当者の選任など、火災予防上必要な措置を講じることが義務づけられました。

①イベント開催時の消火器の準備  
 祭礼や縁日、花火大会、展示会など、多数の人が集合する催しで、対象火気器具(こんろ、発電機など)を使用する場合には、消火器の準備が必要になります。  
 ※近親者によるバーベキュー、幼稚園で父母が主催するもちつき大会のように相互に面識がある方が参加する催しなどは対象外

②露店などで対象火気器具を使用する場合  
 対象火気器具を使用する露店、屋台などを開設する場合は、消防署に届出が必要です。

③「指定催し」と手続き  
 屋外での祭礼などのうち、火災が発生した場合に人命・財産に特に重大な被害を与えるおそれがあると認めるものを「指定催し」として指定します。「指定催し」の主催者には、防火担当者の選任と火災予防上必要な業務に関する計画の作成・提出が義務づけられます。

問合せ狭山消防署予防指導課へ ☎2953-7113



# 要援護高齢者等実態把握調査の結果をお知らせします

平成25年12月、介護保険サービスの利用状況や施策などに関する意識調査を実施しました。この調査結果は、「第6期狭山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」策定の基礎資料にさせていただきます。多くの皆さんにご協力いただき、ありがとうございました。



## ● 調査対象者

一般高齢者(要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方)、要支援・要介護認定(軽度・重度を受けている方)

## ● 調査の概要

国の「日常生活圏域ニーズ調査」の内容を基に、対象者の意向などを調査するため、6千567名の方々に調査票を送付し、3千735件

日常生活圏域ニーズ調査とは…「どこに、どのような支援を必要としている高齢者が、どの程度生活しているのか」を把握するために、国が標準的な質問項目を示したものです。狭山市では、本調査の内容に独自の質問項目も加えて実施しました。

## 狭山市要援護高齢者等実態把握調査の概要

区分	A	B	C	D	E
対象者	一般高齢者(要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方)	在宅の要支援1～要介護2の認定者	施設等の要支援1～要介護2の認定者	在宅の要介護3～5の認定者	施設等の要介護3～5の認定者
配布票数	2,768	2,163	258	682	696
回収数	1,851	1,216	73	322	273
回収率	66.9%	56.2%	28.3%	47.2%	39.2%
調査期間	平成25年12月10日～25日				
調査方法	郵送配布・郵送回収				

※調査結果は、市役所2階行政資料室でご覧いただけるほか、ダイジェスト版をホームページに掲載しています

① 介護が必要になった場合に望む生活は？  
 一般高齢者の調査では、「自宅で家族の介護を受けた」が24.1%、「自宅で介護サービスを利用して生活したい」が25.9%で、合わせて50%の方が在宅生活を希望しています。施設入所の希望は14.2%でした。  
 住み慣れた自宅や地域で生活できる介護サービスが求められています

② 「いつも同じ事を聞く」と言われますか？  
 一般高齢者で「はい」と回答した方は10.2%ですが、要介護2までの軽度認定者(在宅)になると41.3%と多くなっています。  
 認知症予防の普及と相談体制の充実が必要とされています

③ 介護サービスに満足していますか？  
 在宅の軽度認定者で「満足」と回答しているのは、ケアマネジャー64.8%、デイサービス61.9%、訪



④ 今後の介護予防サービスは何か必要ですか？  
 一般高齢者の在宅の軽度認定者ともに、必要なサービスとして、生活支援、健康づくり、高齢者の居場所づくりの順となっています。さらに、これらを一体的に実施すべきとの回答が最も多く寄せられました。  
 総合的な介護予防サービスの充実が求められています

● サービスの向上に努めます  
 調査の結果を踏まえ、地域の力を活かした高齢者支援のネットワークとして、地域包括ケアシステムの構築と、効果的な介護予防事業を推進していきます。

問合せ  
 介護保険課へ内線1553



元気アップ教室「ちやきちやき倶楽部」

## 市長の主な動き

○6/3…全国市長会理事・評議員合同会議・分科会 ○6/4…全国市長会議、全国市長会社会文教委員会 ○6/5…定例記者会見 ○6/9～25…市議会第2回定例会 ○6/18…埼玉県市町村職員共済組合組合会 ○6/23…辞令交付式 ○6/25…狭山市Honda第85回都市対抗野球全国大会出場報告 ○6/26…定例庁議 ○6/27…全国基地協議会・防衛施設周辺整備全国協議会合同役員会・定期総会・実行運動

私が中学1年生の7月1日に「入間村立入間中学校」は、狭山市立入間中学校となりました。あれから60年、思い起こすと懐かしさが込み上げてきます。

先生方は教科担当でありましたが、専門外も担当しなければならず大変だったと思います。そのためだったのか、1年間ソフトボールばかりの体育やラジオ歌謡の「ニコライの鐘」を毎回歌った音楽など、今では考えられない授業もありました。

60年前の中学校の思い出  
 私の中学校は、学校長以下10名の教員と住み込みの事務職員で事務職員はおらず、生徒は6学級260人程度、駐在所と駅長の子ども以外はほとんどの生徒が地元生まれでした。学校は木造2階建てで6つの教室と職員室、裁縫室のほか小部屋の宿直室と放送室、渡り廊下に囲炉裏のある用務員室、さらに校舎の東側に新築間もない特別教室の音楽室と理科室がありました。校庭の南側は木陰となり、冬には霜柱でぬかるんでしまいましたが、野球とテニス、バレーボール、バスケットボールコートが各1面あり、部活動が盛んに行われておりました。朝礼は校庭で行い、上空を飛行機が飛来すると校長先生は言葉を止めて通過を待ちました。



狭山市長 仲川幸成 似顔絵・花倉正喜氏

## 市長随想

106